

新潟県立植物園

植物園だより

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 4月8日(日)まで「チューリップ展 ～春めく新潟花マルシェ～」
- 4月11日(水)～5月27日(日)「シャクナゲ・ツツジ展」
- 5月30日(水)～7月8日(日)「あじさい最前線!」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 4月15日(日)まで「中村澄子 和紙ちぎり絵展」
出展:中村澄子 和紙ちぎり絵教室
- 4月17日(火)～5月6日(日) 「秋山庄太郎写真展」
- 5月8日(火)～5月20日(日) 「里山と人里」
出展:小国生物友の会
- 5月22日(火)～6月10日(日)「ひょうたん展」
出展:西島シーニアクラブ大和会
- 6月12日(火)～6月24日(日)「植物写真展」
出展:秋葉区老人クラブ連合会写真部
- 6月26日(火)～7月16日(月・祝)「押し花作品展」
出展:森のアトリエ

特別展示●花と緑の情報センター(入場無料)

- 4月6日(金)～4月8日(日)「春の大つばき展」
新潟県花つばき協会・県立植物園共催

特別展示●観賞温室第3室

- 5月22日(火)～5月27日(日)「クレマチス展」
出展:鈴木光一(日本クレマチス協会)

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 4月8日(日)10:00～12:00「ツバキ花後の管理」
講師:石井たき(新潟県花つばき協会) 定員:15名 参加費:無料
- 5月10日(木)10:00～11:30「植物園花散歩①」
講師:久原泰雅(植物園スタッフ) 定員:10名 参加費:無料
- 5月12日(土)10:00～11:30「植物園花散歩②」
講師:田中良明(植物園スタッフ・樹木医) 定員:10名 参加費:無料
- 5月27日(日)13:30～15:00「クレマチスを楽しむ」
定員:30名 参加費:無料 講師:鈴木光一(日本クレマチス協会)
- 6月14日(木)・17日(日)10:00～11:30「マツの剪定」
定員:各10名 参加費:無料
- 6月21日(木)10:00～11:30「植物園花散歩③」
講師:久原泰雅(植物園スタッフ) 定員:10名 参加費:無料
- 6月23日(土)10:00～11:30「植物園花散歩④」
講師:倉重祐二(植物園副園長・「趣味の園芸」講師)植物園職員
定員:10名 参加費:無料
- 6月23日(土)14:00～15:30
親子教室「果物手もみジュースと果樹の観察」
講師:石田恭子(フードコーディネーター・野菜ソムリエ)
定員:10組 参加費:1,000円(おやつ付き)

5月4日(金・祝)・5日(土・祝)
「春の植物園まつり」

- バックヤードツアー
- 寄せ植え教室
- 植物素材を使った体験教室
- 植物園友の会主催
チューリップ花絵づくり
- 園芸相談
- 古本市
- 物販(植物・食品)など

※1日限りのものもあります。詳細スケジュールは4月下旬に当園ホームページに掲載予定です。

6月3日(日)
「にいつ花ふるフェスタ」

主催:にいつ花ふるフェスタ実行委員会

ステージイベント、にいつ食の陣当日座、寄せ植え教室、物販(植物・食品)、ミニガーデンコンテスト作品展示など内容盛りだくさん。また、フェスタ当日に限り、温室入館ワンコイン(100円)デーを実施!

ミニガーデンコンテスト出展作品募集!!

- ミニガーデン部門(1m四方)
賞金 最優秀賞3万円 優秀賞1万円
 - 寄せ植え部門(8号鉢以上)
賞金 最優秀賞1万円 優秀賞5千円
 - ・応募受付期間 4月1日(日)～5月20日(日)
 - ・作品展示期間 5月27日(日)～6月3日(日)
 - ・展示場所 県立植物園エントランス広場
- 申込方法など詳しくは当園ホームページをご覧ください。

4月21日(土)～6月17日(日)
「フラワースタンプラリー」

春の行楽シーズンに花や緑をはじめ、レクリエーション、食を楽しめるイベントが各地で開催されます。
みつげイングリッシュガーデンと国営越後丘陵公園が拠点となり昨年から始まった「フラワースタンプラリー」。各施設に設置されているスタンプを集めて応募し賞品をゲットしよう!というイベントです。今年は新潟県立植物園をはじめ、新潟美術館、フラワーランド、うららこすど、花夢里にいつも参加します。花いっぱい春をお楽しみください。
詳しくは、今後のHPでご確認ください。

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、
高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料

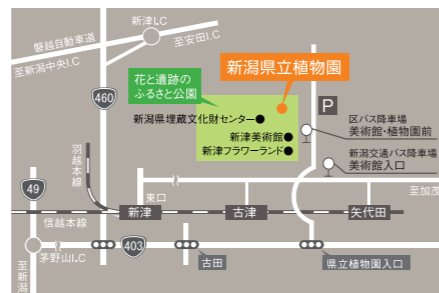
●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

| 4 | | | | | | | 5 | | | | | | | 6 | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | ● | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | ● | ● | ● | ● | ● | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 29 | 30 | ● | ● | ● | ● | ● | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | ● | ● | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| | | | | | | | | | | | | | | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

※新年は1月2日から開館します。

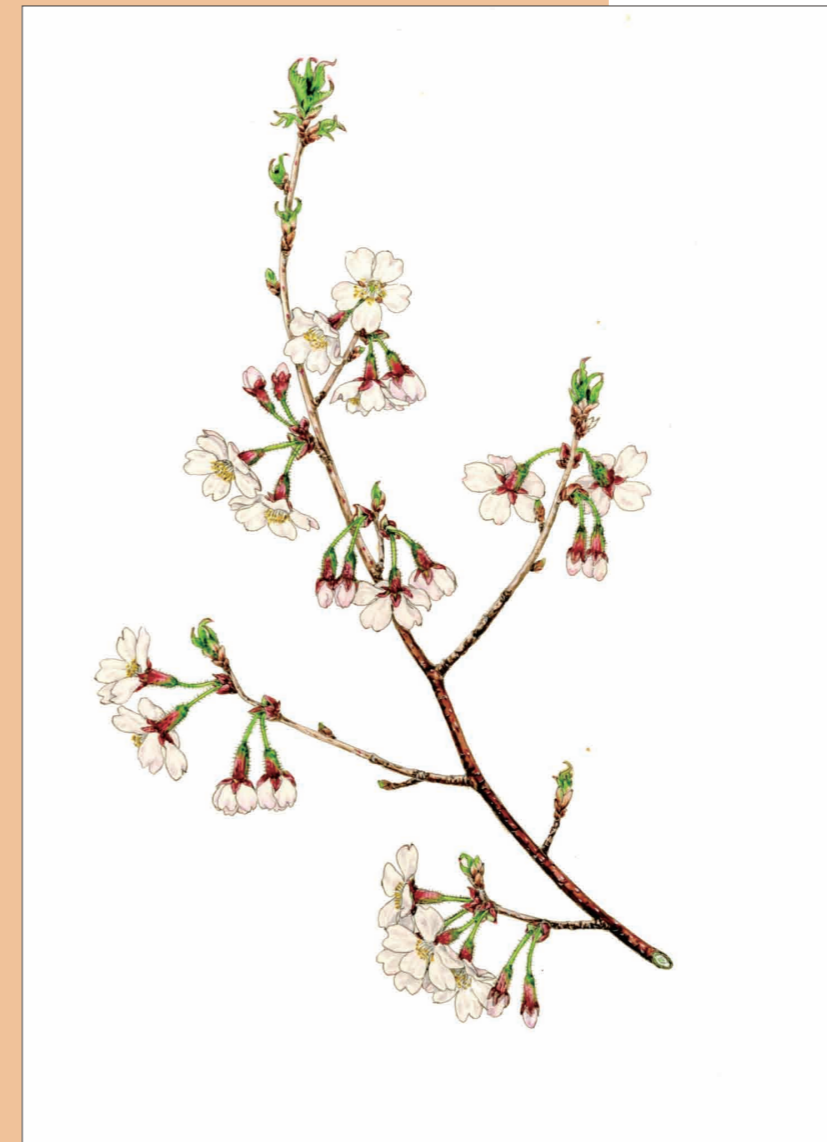
●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J.R./信越線古津駅から徒歩約25分
バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ

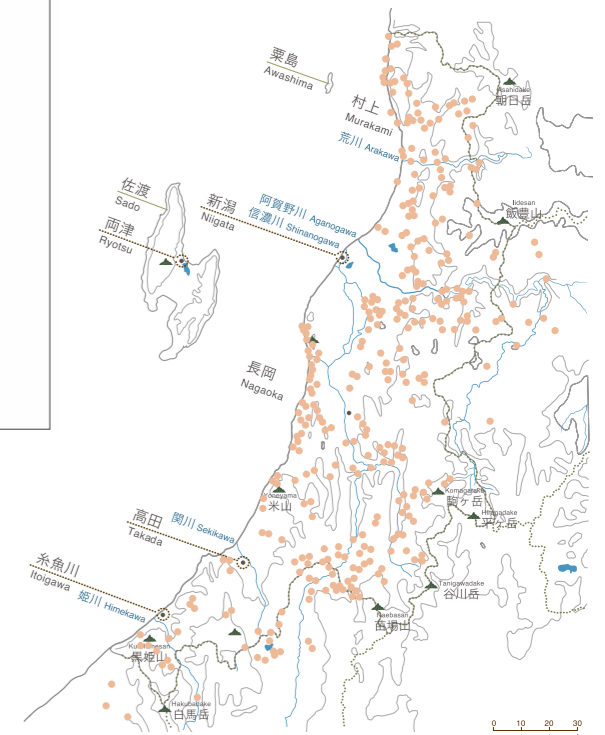


富樫信平画 1981.4.14 新潟県荒川町(現村上市)産

オクチョウジザクラ
Prunus apetalata var. *pilosa*

チョウジザクラは本州中部以北の太平洋側沿岸に生育するが、本種オクチョウジザクラは、中部以北の日本海沿岸に限られ、特に多雪寒冷地帯に多い。チョウジザクラよりやや小型で高さはふつう3～4m、枝は細く繊細な感じがする。花付きはチョウジザクラ同様少なく、ヤマザクラやオオヤマザクラのように絢爛豪華ではないがまだ残雪の残る山の斜面に点々と咲く様は何か心が引付けられる。

解説:富樫信平(抜粋)



新潟県内の分布(新潟県植物分布図集第2集より転載)



ボルネオのウイレアシャクナゲ、ステノフィラム(R. stenophyllum)



新潟県内で育成されたシャクナゲ、'紫宝'



アメリカ原産のレンゲツツジの仲間、アウストリヌム(R. austrinum)

企画展示

シャクナゲ・ツツジ展 「フォレストとウィルソン 二人のプラントハンター」

平成24年
4|11(水)–5|27(日)

豪華な花容を誇るシャクナゲの園芸品種、西洋シャクナゲの80%以上は新潟県で生産されています。

西洋シャクナゲの原種は、中国やブータン、インド、ミャンマーなどに自生し、19世紀半ばからプラントハンターによって西洋にもたらされました。以降150年以上に渡って品種改良が進められ、世界各地で広く栽培されるようになりました。

今回の展示では、二人のプラントハンター、中国の自生地から数多くのシャクナゲを採集したイギリスのフォレスト、来日しツツジを採集、クルメツツジを海外に紹介したウィルソンに焦点を当て、自生地からの導入、園芸化、日本への渡来、新潟での産地化まで、シャクナゲ、ツツジの栽培や品種改良の歴史と、県立植物園の貴重なコレクションをご紹介します。

園内
ウォッチング

温室●ヒスイカズラの親子

園内でサクラの咲く頃、温室熱帯植物ドームではサクラに負けない程美しい花が咲き始めます。それはマメ科のツル植物で、ヒスイカズラといます。英名もヒスイ(色)のつる植物という意味の「ジェイド・バイン」と呼ばれています。フィリピンに自生し、絶滅の危機に瀕している植物です。開花時期になると、お客様から「綺麗な花ですね!ヒスイ色の花は初めて見ました。」などの感想を頂きますし、記念撮影スポットとしても人気があります。

貴重な植物の子孫を後世に残すため、2010年5月に人工授粉を試み、植物園で初めて2果が結実し、9月に種子を採ることに成功しました。1つの実には約10個の種子が入っていて、すぐに育苗を始めました。今ではツルを伸ばし元気に育っている様子が観賞温室第3室で見ることができます。来園した際には、ドームにある親のヒスイカズラと住宅花壇に植えられている子供の子孫をぜひご覧下さい。(小日向美香)



受粉の様子



種子

実がなった!

ヒスイカズラの子ども

アジサイ展「あじさい最前線！」

平成24年
5|30(水)–7|8(日)

今年は3年ぶりにアジサイ展を開催します。テーマはあじさい最前線。庭や公園に植えられているアジサイやガクアジサイも実に多彩ですが、鉢植えのハイドランジアをはじめ、ヤマアジサイ、ノリウツギ、アメリカ原産のカシワバアジサイや'アナベル'も品種改良が進んでいます。近年はこれまでにない2~3月に開花する「冬あじさい」(群馬県作出)も登場しました。

そこで今回は急速に進歩しているアジサイの最新品種や品種改良の情報を皆様にお届けします。がく咲きからまり咲きに変化する品種、小型の品種など、当園の保有するアジサイのコレクションと共に見たことのないアジサイの世界をご覧ください。



企画展示



園内
ウォッチング

園地●サクラサク

植物園のサクラ類の中で最も早く開花するのが垂熱帯産のカンヒザクラ(Cerasus campanulata)です。例年ですと3月下旬にはほころび始めます。4月の声を聞くとエドヒガン(C. spachiana f. ascendens)が咲き始めます。

サクラの代名詞である園芸品種のソメイヨシノ(C. x yedoensis 'Somei-yoshino')の開花は平年が4月9日です。昨年は3月の低温の影響で平年よりも5日遅い14日でした。過去の最遅は3月30日、最遅は4月26日です。

植物園の園地には、この他にもオオヤマザクラ(C. sargentii)やヤマザクラ(C. jamasakura)、オクチョウジザクラ(C. apetata var. pilosa)などの野生種のサクラがソメイヨシノに前後して咲きます。この後を追うようにサトザクラの仲間が咲き始めます。園内のさくらの山には、カンヒザクラを親にもつ'陽光'(C. 'Yōkō')や'楊貴妃'(C. serrulata 'Mollis')、緑色の八重の花を咲かせる'御衣黄'(C. serrulata 'Gyoikō')や'鬱金'(C. serrulata 'Grandiflora')なども咲いて長く楽しめます。(田中良明)



エドヒガン



'鬱金'

オクチョウジザクラ



ソメイヨシノ



咲き始めたカンヒザクラ



さくらの山

NEWS 1

魚沼市と新潟県植物園の協働による保全活動

新潟県の南東部に位置する魚沼市は、福島県と群馬県に隣接し、尾瀬にも近く、豊かな自然を誇る地域として知られます。946.93平方キロメートルという広大な面積と、高低差2,067メートル(最高点2,141m、最低点74m)の中に多彩な地形を有し、そこに広がる里地や里山、山岳、湿地、河川、湖沼などの環境には多様な植物が分布しています。

魚沼市では、この豊かな自然を生かした町づくりを行うべく、市政施行5周年にあたる平成21年度に自然環境都市を宣言しています。

オキナグサの保全活動

平成16年の中越大地震で、絶滅危惧植物である魚沼市のオキナグサの自生地も斜面が崩壊するなど、大きな被害を受けました。このため、新潟県立植物園が依頼を受けて、地元の小学校や山草会と協力して、崩壊した自生地からのオキナグサの移植、また自生地の修復後の植え戻しを行いました。

その後、平成20年、21年には環境省生息域外保全モデル事業(地域の協働参画モデル)として魚沼市のオキナグサが選ばれ、植物園と地元小学校や市民との協働で、開花調査や種子採取、育苗、植え戻しまでを行うなど大きな成果をあげました。その集大成として平成21年12月に200名以上の市民

の参加のもと「魚沼市生物多様性保全シンポジウム」が開催されました。パネルディスカッションでは、これまで魚沼市は植物の調査が不十分であるため、これから希少な植物が発見される可能性が大きいこと、行政だけではなく市民の参加が重要であることが確認されました。

市民参加による自然環境調査

これらの保全活動を受けて、魚沼市では平成22年に、どうやって自然を守り、利用するかを検討するために、環境保全調査委員会を組織しました。当園も委員として参加し、1年間に渡り議論と作業を重ね、市内の植物調査が一部の地域を除いてほとんど行われていないこと、まずは自然環境の特性を明らかにすることが必要と結論し、調査方針、方法、調査地の選定等について検討しました。

昨年度からは、魚沼市が市民や植物園等の関連機関と協力して、里地、里山、水辺など、人の生活圏の近い13か所で176回の現地調査を行っています。これまでに1地区当たり約300種類を確認し、全体で約500点の標本を採集するなどの成果をあげました。

今後の展開

魚沼市のような市民参加型の調査、保全活動の取り組みは、県下では例を見ません。通常、行政の行う植生調査は、専門の業者に発注することが多いのが実際です。この方法は効率は良いのですが、その一方、地元で暮らしている方にとって、価値を感じにくく、意義が薄いものとなりがちです。その意味で、市民、行政、植物園をはじめとする関連団体が協働して行う魚沼市の取り組みは、市民が自ら自然の特色を知ることによって郷土に愛着が湧く方法であり、今後の保全活動に弾みがつくと期待しています。

魚沼市HP <http://www.city.uonuma.niigata.jp/>

(倉重祐二+魚沼市市民課環境対策室)



写真左:調査地の下見 昨年度は記録的な大雪で春の雪消えも遅く、4月25日の下見ではまだこんなに雪が残っていた。
写真右:分類の難しいシダ類とスゲ属の標本を採取中。同定が難しいものは、新潟県立植物園が協力。



羊毛でつくった洋ナシとリンゴ(STUDIO+SHOP Room提供)



楽しい羊毛ワークショップ(STUDIO+SHOP Room提供)

NEWS 2

新しい「花と緑の教室」がはじまります!

植物園が平成10年に開園してから、植物、自然、園芸など、植物の様々な分野での花と緑の教室を開催し、今では年間40回を数えるまでになりました。

これまでに、草花、花木、山野草など様々な植物の栽培・管理、栽培の歴史などの講義や実技、年間とおして学ぶ連続講座のガーデニングアカデミー、夏休みの子どもを対象とした親子教室、植物と食文化の講座など、多くの方に植物への関心をもっていただけるように教室の内容も更新してきました。

そして平成24年度は、植物については初心者という方や小学生も楽しめる、植物をモチーフとした羊毛のオブジェづくりや果物を使ったジュースづくり、デジカメ教室など、「体験して、食べて、学べる」一石三鳥の楽しい教室を開催します。また、植物愛好家やガーデニング上級者用のステップアップ講座も計画しています。

今後の植物園の花と緑の教室情報をお見逃しなく。(永井明子)

NEWS 3

ミニガーデンコンテスト作品募集

6月3日(日)に当園を会場に開催される「にいつ花ふるフェスタ」(主催:にいつ花ふるフェスタ実行委員会)。その中の名物企画「ミニガーデンコンテスト」は今年で4回目を迎えます。

毎年、フェスタ1週間前から色とりどり個性豊かな作品がエントランス広場に並び、自分好みの作品の前で記念撮影をされたり、あれこれ批評しあったり、楽しみながら作品鑑賞をされる来園者の皆さんの姿が多く見られます。

1m四方のスペースに小さな庭を表現する「ミニガーデンコンテスト」のほか、今年は「寄せ植え部門」を新設。より参加いただきやすくなりました。

ミニガーデンはファミリーやお友達単位でわいわい楽しみながら。寄せ植えは個人のセンスを存分に発揮して。今年はぜひコンテストに参加してみませんか。(大谷史絵)

●ミニガーデン部門

- 最優秀賞(1組) 賞金3万円
- 優秀賞(2組) 賞金1万円

●寄せ植え部門

- 最優秀賞(1組) 賞金1万円
- 優秀賞(5組) 賞金5千円

※上記のほか特別賞、参加賞あり

応募受付期間/4月1日(日)~5月20日(日)

作品展示期間/5月27日(日)~6月3日(日)

詳しくは下記にお問い合わせください。

新津観光協会 TEL.0250-24-3777

県立植物園 TEL.0250-24-6465



展示風景



ミニガーデン部門作品



寄せ植え部門作品

上2点/サギゴケ、下/トキワハゼ



新潟の植物

サギゴケ *Mazus miquelii*

図鑑などの解説には、田の畦など、日本全国の少し湿ったところに生えるゴマノハグサ科の多年草と紹介されているが、除草剤に弱いのか、田んぼの畦ではお目にかかったことが無い不思議な草である。

図鑑では、特に花色が濃いものをムラサキサギゴケとして紹介している。きれいな花を咲かせる草なので、一度お目にかかりたいと探していたのだが、なかなか見つからず諦めかけていたところ、3年前に植物園の池から続く芝生の斜面に多くの株が自生していることに気付いた。

田んぼの畦に良く生えているのは同じゴマノハグサ科のトキワハゼ (*M. pumilus*) である。サギゴケは、トキワハゼより大型で花も大きく豪華に見える。この二つの植物は形態や生態が似ているが、サギゴケには匍匐茎を伸ばして新しい苗をつくり繁殖するが、トキワハゼには匍匐茎が無い。サギゴケの開花期が4月から5月に限られているのに対しトキワハゼは冬期間以外には花を付けるところで、見分けることができる。(田中良明)

写真は自生のサツキ



サツキ日光



アザレアとの交配種サツキ'好月'



NHK出版「みんなの趣味の園芸」の最新の植物園日記は <http://www.shuminoengei.jp/?id=3078> でご覧になれます。また、昨年度分の日記をまとめた電子書籍を無料で公開しています。 <http://p.booklog.jp/book/32962>

みんなの趣味の園芸セレクション

サツキはインド原産?

今日の話題は、アザレアの英名がなぜベルジアン・インディアン・アザレアと言うかについてです。話しが少々たかくなりましたが、私以外に書いているのを見たことがありませんので、必読です。

常緑から半常緑のツツジ(ツツジ亜属ヤマツツジ節)は日本や台湾、中国東部など限られた地域に分布します。この仲間ではじめてリンネによって学名がつけられたのがサツキ (*Azalea indica* アザレア・インディカ) で、1753年のことです。

なぜ日本原産のサツキに「*indica*:インドの」の意味の学名がつけられたのか? 私も不思議に思って調べましたが、そのヒントがウイルソンの「A monograph of azaleas」(1921) にありました。

サツキがヨーロッパに導入された記録は1680年にさかのぼり、バタビア(ジャカルタ)からオランダに渡ったとされています。当時、「インド」は、インドだけではなく、ヨーロッパから見てインドより東の未知の国々の意味で使われていました。The East Indies(東インド)も同じ意味に由来する表現です。リンネはこれらの記録を参考に、バタビアが東インドに含まれることから「インドの」の意味の学名をつけたのだと思われます。ウイルソンはオランダ船によって長崎からバタビア経由でオランダに入ったのだらうと推測しています。

ちょっと横道に逸れますが、沖縄の古称「うるま」は、歌などではどこか遠くの南の島のイメージを表すのだと何かに書いてありましたが、それも同じことなのでしょう。かつては「琉球」と呼ばれた「白琉球」は、「地錦抄附録」(1733)によれば琉球から渡ってきたと書かれています。沖縄には親に当たるツツジはありませんので、これも南方から来たくらいの意味かなと思います。

閑話休題。その後に本格的にヨーロッパサツキやその他の野生種、園芸品種が本格的に導入されたのは1800年代はじめのことで、これらにはどれもこれもとにかくサツキの学名が与えられました。そんなことから、アザレアもベルギーで改良されたサツキ(ベルジアン・インディアン・アザレア)と呼ばれたのです。日本のツツジの野生種や園芸品種が分類が整理されたのは、20世紀に入ってからのことでした。中国のツツジにいたってはその全貌が明らかになったのは1983年のことです。

日本にアザレアが里帰りしたのは明治中期だとされますが、学名から判断したのか、アザレアはインド原産であると書かれています。アザレアは日本が本家本元だったのに気づいたのは、昭和に入ってからようです。(倉重祐二)

※みんなの趣味の園芸 2011年1月26日 新潟県立植物園 植物園日記より転載

友の会通信



春の植物園まつり 出店のようす



ヒメサユリ(春の植物観察会)



春の植物観察会(三条市ヒメサユリの小径)

「新潟県立植物園 友の会」は平成16年3月に発足し、今年で9年目を迎えます。現在は会員数200名を超える会へと成長し、年々活動が活発化しています。

昨年度は、植物園まつりの出店、花絵づくり、花ふるフェスタ「ミニガーデンコンテスト」への出展(最優秀賞受賞)、3回の植物観察会、植物園友の会写真展示などいろいろ活動を行いました。今年度もさらに活動の幅が広がります。



ミニガーデンコンテスト出品作「かくやひめの夢」

今年度の活動予定

- 4月15日●平成24年度総会
- 5月4、5日●植物園まつり出店
花絵づくりを行います。
- 6月●花ふるフェスタ「ミニガーデンコンテスト」出品
有志で作品を作製し出品します。
- 6月、8月、10月●植物観察会(行先未定)
1泊の観察会を1回、日帰り観察会を2回
予定しています。
- 12月●クリスマス交流会
講演会、植物交換会を予定しています。
- 1月●友の会展示(観賞温室第3室にて)
観察会で撮影した植物の写真などを展示します。

そのほか、月1回最終日曜日に打ち合わせ、植物園内や周辺の植物観察会を行う予定です。詳細は会員へのおたよりでお知らせしています。



夏の植物観察会(奥只見、湯沢方面)



奥胎内の紅葉



秋の植物観察会(奥胎内)

新潟県立植物園 友の会 会員募集

植物園友の会は植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同いただける方の会です。会員を随時募集しています。詳細は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。

年会費(4月より翌年3月まで)
●個人会員 2,000円 ●ファミリー会員 2,500円 ●賛助会員(一口) 10,000円
会員特典:植物園観賞温室の入館無料、植物園だよりなどの送付

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail: bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員(わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています)
●株式会社アート環境設計 ●株式会社アート